



# 海洋システム科通信 10月号

## 成果で臨む

(生徒研究発表会東北地区大会)



海洋科学コースの3年生が、リモートで行われた生徒研究発表東北大会に参加した！一年間かけて行ってきた広田湾の海洋環境調査の成果を報告し、奨励賞を受賞した！



## 進路に繋がる学び

(1・2年生水産・海洋関連企業見学会)



海洋システム科の1年生と2年生が、それぞれ陸前高田市や大船渡市にある水産関連企業を見学させて頂いた！地元企業について理解を深めるとともに、進路に繋がる大きな学びを得た！

## 先生の独り言 vol.7

## 「3億円のうんち」

インドネシアの少年が、海岸で拾った“あるもの”で億万長者になった。その額なんと3億円。拾った物体の名は、「龍涎香(りゅうぜんこう)」。独特な良い香りと、なかなか手に入らない希少性から高値がつく。実はこの物体、「マッコウクジラのうんち」である。

マッコウクジラは、歯があるクジラとしては最大で体長20m 体重50トンにもなる。これだけ大きければ、オムツをはかせてうんちを集めることもできない。しかも、全てのうんちが龍涎香になるわけではない。食べたものがとても重要なのである。マッコウクジラはイカ好きとして知られている。深海にすむダイオウイカを求めて1000mも潜ることさえある。食べられたイカの体の大部分は、クジラのお腹の中できれいに消化されるが、消化しにくい口ばしだけは残っ



てしまう。口ばしは、ほとんどの場合そのままぶりっ！と体外へ排泄されるが、稀に、クジラの消化管から分泌される粘液に包まれ結石となる。これが龍涎香のものである。ちなみに、この時点では激臭で、その匂いは私たちが知っている「うんち」そのものなのだとか。排泄された結石は海水よりも軽いため水面に浮く。そして、酸素や日光にさらされながら漂っているうちに、独特な良い香りを持つ龍涎香となる。

龍涎香という呼び名は、他の自然物にはない香りや色、形から、古来中国で「龍の涎(よだれ)が固まったもの」であると考えられ、つけられたもの。3億円という価値を考えると、クジラのうんちだと知らずに、龍のよだれだと思えていた方が、ありがたく感じられたかもしれない。

